

■アフター5 スター賞 (SIII) アラカルト (過去全 23 回の分析)

- ※第 1 回 (平成 6 年) から第 8 回 (平成 13 年) までは大井ダ 1800m で実施
- ※第 9 回 (平成 14 年) は大井ダ 1790m で実施
- ※第 10 回 (平成 15 年) は大井ダ 1190m で実施
- ※第 11 回 (平成 16 年) からは大井ダ 1200m で実施
- ※第 14 回 (平成 19 年) は馬インフルエンザの影響で施行日を 9 月 5 日から 11 月 30 日に延期
- ※記録は平成 29 年 8 月 2 日時点

■3 着内率は単勝 1 番人気馬より単勝 2~3 番人気馬の方が高い

単勝 1 番人気馬は 8 勝、2 着 4 回、3 着 0 回で、3 着内率が 52.2% だった。一方、単勝 2 番人気馬は 4 勝、2 着 6 回、3 着 4 回で 3 着内率が 60.9%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 2 回、3 着 7 回で 3 着内率が 56.5% となっている。単勝 2 番人気馬や単勝 3 番人気馬に比べ、単勝 1 番人気馬がやや苦戦しているレースだ。

■上位人気馬が 1~3 着を占めた例は 3 回

過去 23 回のうち 16 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 9 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■優勝馬の年齢は 3 歳から 9 歳まで多岐に渡る

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 4 勝、4 歳が 3 勝、5 歳が 7 勝、6 歳が 3 勝、7 歳が 2 勝、8 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝となっている。幅広い年齢層から優勝馬が出ているレースと言えるだろう。

■優勝馬の大半は大井所属馬

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 5 勝、大井が 14 勝、川崎が 2 勝となっている。およそ 6 割を大井所属馬が占めている計算だ。

■牝馬は1勝、外国産馬は3勝

牝馬の優勝例は第20回のハードデイズナイトのみである。また、外国産馬の優勝例は第12回のロッキーアピール、第16回のケイアイジンジン、第23回のルックスザットキルの3回がある。

■“連覇”を達成したのはハタノアドニスだけ

2回連続で優勝を果たしたのは、現在のところ第10回ならびに第11回のハタノアドニスのみである。

■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の内田博幸騎手（現在はJRA所属）が単独トップである。なお、現在も南関東所属の騎手に限定すると、石崎駿騎手、坂井英光騎手、的場文男騎手が各2勝でトップタイだ。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の福永二三雄調教師、高橋三郎調教師、川島正行調教師がトップタイだった。なお、現在も現役の調教師に限定すると、2勝の小久保智調教師が単独トップである。

■優勝馬の大半は馬番が1～8番

枠番別の勝利数を見ると、5勝の3枠が単独トップ。4枠と5枠が4勝で2位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、5勝の6番が単独トップ。2番と8番が3勝で続いていた。なお、10番、11番、12番、14番、15番は未だ優勝例がなく、9番、13番、16番もそれぞれ1勝どまりだ。

<伊吹雅也>